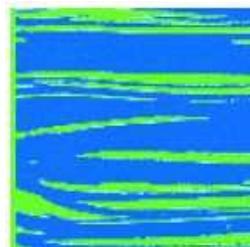


日本行動分析学会ニューズレター

J-ABAニューズ



2015年 春号 No. 78 (2015年7月7日発行)

発行 一般社団法人日本行動分析学会 理事長 坂上貴之
〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1 リファレンス内
FAX : 06-6910-0090 (日本行動分析学会事務局と明記) URL : <http://www.j-aba.jp/>
E-mail : j-aba.office@j-aba.jp

理事長就任のご挨拶	坂上 貴之
理事長退任のご挨拶	園山 繁樹
事務局長退任のご挨拶	渡部 国隆
日本行動分析学会第33回年次大会のご案内	竹内 康二
前編集委員会を代表してご挨拶申し上げます	森山 哲美
『行動分析家の倫理—責任ある実践へのガイドライン』の出版案内	森山 哲美
ABAI2015 体験記 (1) : アメリカの多様さ、コミュニケーションの奥深さ	岡 綾子
ABAI2015 体験記 (2) : SQAB/ABAIに参加して	時 曉聴
編集後記	ニューズレター編集部

理事長就任のご挨拶

坂上貴之 (慶應義塾大学文学部)

この度、園山理事長の後を引き継いで日本行動分析学会理事長を務めることになりました。ご存知のように、本学会は本年4月1日より一般社団法人となり、新しい定款の下で代議員(社員)を選出し、そこからさらに理事を選出するという、これまでとは異なった選出過程が執り行われました。それだけではなく、学会の運営を常に監視する監事が置かれ、理事及び監事は、正式な届け出が必要となって、これまで以上の

学会への責任ある対応が求められることとなりました。

社団法人化の目的は、間もなく1000人に到達する本学会の規模に見合った活動の活性化と、公認心理師等への関わりなどの、学会への様々な期待に対応できる法人格の取得であると私は考えております。しかし同時に、園山前理事長が強調されてきたように、本学会がその30年の歩みと共に形成してきた、学会員間の強い信頼

関係と学術研究への飽くなき探求という、失ってはならない土台の上に、この社団法人化はなされる必要があると思います。

私のこの2年間の任期においては、社団法人としての本学会の活性化とこれまでの本学会の歩みとを円滑に接続していくことを目途として、特に組織、財政、定款の見直しを行っていきたいと考えております。また将来を見据えた新しい試みも行っていきたいと思っております。しかしながらこの接続や試みは、代議員や理事のみの力では、到底達成できるものではありません。今後の一層の本学会の発展のために、会員の方々のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

以下に役員の職務分掌と関連する職務内容についてまとめさせていただきます。今回の理事会では、上に述べました円滑な接続と新しい試みを実施するために、これまでの組織をより機動力を高めたものになりたいと考えております。

特に事務系部門では総務、法務、財務委員会において、様々な規約の整備や新しい財政的な取り組みを行ってまいります。また企画系部門ではこれまで複数の委員会にまたがっていたものを、集約的に実行するために統合し、渉外、企画、編集の3委員会を設置いたしました。そしてすべての委員会は、2名の理事の方々に主務、副務の労を取っていただくことで、責任ある運営をお願いいたしました。各委員会の仕事の分担については理事間でご相談の上、必要に応じてさらに手伝っていただける方を加えて各業務を遂行していただく予定ですが、詳しい内容や人事については、今後の理事会の中での話し合いを踏まえて順次お伝えしてまいりたいと存じます。

理事長退任のご挨拶

園山繁樹（筑波大学）

この度、6月7日付けをもちまして理事長を退任いたしました。本来の任期は3月31日までですすでにその時を過ぎていましたが、本学会の一般社団法人登記が完了するまで延長となっていました。一般社団法人登記は、去る4月1日に無事完了いたしました。

3年前に藤健一先生より重責を引き継ぎ、この間、3回の年次大会開催（高知、岐阜、弘前）、前理事会で企画・準備された設立三十年記念事業の実施、初めての学会功労賞表彰式、そして最後の一年は一般社団法人登記準備をつつがなく行うことができました。理事長の任を全うすることができましたのも常任理事・理事の皆様、

各委員会委員の皆様、年次大会実行委員会の皆様、事務局の皆様のご協力のお陰であり、また学会活動に活発に参加いただいた会員皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。

個人的な思い出としては、生涯で初めての骨折を経験し、2週間後の高知年次大会に松葉杖で参加したことが思い出されます。

さて、今年は明星大学で第33回年次大会が開催され、その前日の8月28日（金）には一般社団法人設立記念企画（パネルディスカッション）が法政大学で開催、そして9月27日からは京都で国際行動分析学会第8回国際会議が開催されます。会員数ももう少しで千人に達します。日

本行動分析学会はグローバル化社会の中
でますます発展しております。
新しく理事長になられた坂上貴之先生を中心

に、本学会が一層学問と社会に貢献する組織と
して発展し続けることを祈念し、理事長退任の
ご挨拶とさせていただきます。

事務局長退任のご挨拶

渡部匡隆（横浜国立大学）

この度、事務局長を退任いたしました。不安
の中での出発でしたが、何とか次の事務局体制
にバトンタッチすることができました。皆様
のご協力に心から感謝申し上げます。今後も、微

力ながら行動分析学の発展のために寄与してい
きたいと考えています。ありがとうございました。

日本行動分析学会第33回年次大会のご案内

日本行動分析学会第33回年次大会準備委員会 委員長 竹内康二

2015年8月29日・30日に、明星大学にて開
催される日本行動分析学会第33回年次大会に
つきまして、ご案内させていただきます。

4月末までの大会予約参加申し込みは約180
名、そしてポスター発表99件、公募企画シン
ポジウム3件のお申し込みがありました。沢山の
お申し込みをいただき、ありがとうございます。
大変充実した大会になりそうで、準備委員
一同感謝しております。

大会プログラムについてご紹介します。今大
会では大会企画の講演会の開催はありませんが、
会員集会の際に学会賞等の授賞式と受賞者の小
講演を予定しております。また、学会企画シン
ポジウム1件と、大会企画シンポジウム2件が
予定されています。大会企画としては、研究教

育推進委員会の先生方が「日常行動に目を向け
る行動分析という視点」というタイトルでシン
ポジウムを準備してくれています。大会企画シ
ンポジウムについては、現在内容を調整中のた
め大会発表論文集にて詳細をお知らせいたしま
す。

ご応募いただいた公募企画シンポジウムとし
ては、「行動分析学からみたりハビリテーショ
ンとQOL」とその他2件が予定されています。
こちらも詳細は、大会発表論文集をご確認くだ
さい。

大会発表論文集は、7月の終り頃に会員の皆
様にお届けできるよう準備をしております。併
せて、大会に関する詳細情報を大会ホームペ
ージに掲載していきますのでご確認ください。す

でに予約参加の申し込みは締め切っておりますが、当日に受付にて参加申込および懇親会の申

込ができますので、多くの参加をお待ち申し上げます。

前編集委員会を代表してご挨拶申し上げます

機関誌『行動分析学研究』第12代編集委員長 森山哲美

機関誌『行動分析学研究』の第12代編集委員長として2012年度から3年間、編集業務に携わった森山哲美です。このたび編集委員の皆様のお力添えのもと任期を終えましたので、編集委員会を代表してご挨拶申し上げます。日本行動分析学会の一般社団法人化に向けた準備期間のために、2年の任期を超えて編集業務に携わることができました。おかげさまで、その間に、2013年第27巻第2号から2015年第30巻第1号(2015年7月末発行予定)まで、無事に機関誌『行動分析学研究』を発行することができました。園山繁樹前理事長、そして掲載論文の英文を懇切丁寧に校閲してくださったステファニー S・富安先生に厚くお礼申し上げます。また、大変興味深い論文を投稿してくださった多くの方々に感謝申し上げます。さらに、事務局として支援してくださったリファレンス社の川原義彦氏、国際文献社の笠井健氏と長谷川和也氏にも感謝申し上げます。

編集委員としてやり残した仕事は多くあり、学会の皆様にご満足いただける対応ができなかったのではないかと反省しています。たとえば、研究倫理に関わる事項への対応や、機関誌への投稿執筆の条件などが未整備のままです。編集委員会は、昨年度、『行動分析学研究』の投稿規定と「執筆の手びき」を改変しました。総会で報告申し上げ、承認を得る予定でしたが、日本

行動分析学会が一般社団法人になったことで、その方法も変わるかもしれません。近い将来、改編内容について中島定彦新編集委員長から伝えていただくようにいたします。またご存知の方もいらっしゃると思いますが、「執筆の手びき」が準拠している日本心理学会の「投稿・執筆の手びき」が改訂されました。この場を借りてお伝え申し上げます

(<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>)。

残された問題は多くありますが、日本行動分析学会が一般社団法人としてこれから発展を遂げる上で、機関誌『行動分析学研究』が果たす役割は、今後も極めて重要であると考えます。幸いに次期編集委員長に中島定彦先生(関西学院大学)、副委員長に武藤崇先生(同志社大学)の御二人が就任なされたことで、機関誌『行動分析学研究』のさらなる発展はゆるぎないものになると確信しています。

最後になりますが、学会の皆様には日本行動分析学会編集委員会へのこれまで以上のご理解とご支援をお願いするとともに、機関誌『行動分析学研究』のさらなる発展を祈念して擲筆いたします。

『行動分析家の倫理—責任ある実践へのガイドライン』 の出版案内

森山哲美（常磐大学）

常磐大学の森山哲美です。日本行動分析学会創立三十年記念出版事業の支援を学会から受けて、Bailey 教授と Burch 教授が著した“Ethics for Behavior Analysts”の翻訳書を二瓶社から『行動分析家の倫理—責任ある実践へのガイドライン』と題して上梓しました。

訳者は、中野良顯先生、鎌倉やよい先生、吉野俊彦先生、大石幸二先生、そして私の5名ですが、「日本行動分析学会・行動倫理研究会」として出版しました。

“Ethics for Behavior Analysts”は、行動分析士資格認定協会（The Behavior Analysts Certification Board, BACB）のガイドラインを解説した本です。著者である Bailey 教授と Burch 教授は、行動分析家が研究と実践を行う

ときに遭遇する実際的な倫理上の問題をエピソードとして掲げ、上記ガイドラインに即して、それらの倫理的な問題への具体的な対処法を、行動分析学の研究の成果を踏まえながら提案しています。翻訳の趣旨は訳書の「あとがき」に記しました。

来る8月29日（土）と30日（日）に明星大学で開催される日本行動分析学会第33回年次大会会場で、二瓶社様から展示販売（価格は4200円＋税ですが、学会特別割引で販売）される予定です。ぜひお手元においてご覧いただきますよう、よろしくお祈りします。

<ABAI2015体験記（1）>

アメリカの多様さ、コミュニケーションの奥深さ

岡 綾子（関西学院大学文学研究科）

この度は、2015年度日本在住学生会員のABAI/SQAB参加に対する助成をいただき、誠にありがとうございました。ABAI41回大会の報告をいたします。

ABAI41回大会は、テキサス州サンアントニオ

で行われました。サンアントニオについて詳しく知っておられる方はそう多くはおられないかと思えます（私もその一人でした）。その昔、テキサス独立戦争の要塞だった「アラモ砦」と、樹木も建物もびかびかに整備された川沿いの遊

歩道（まるでディズニーランドの川のようにした）「リバーウォーク」が推しの、こぢんまりとした観光地です。折しもテキサス州にはトルネードや集中豪雨が押し寄せている最中で、蒸し暑い上に一日に何回も激しい大雨が突然降ってくる状態でしたが、ニューヨークやハワイとはまた違うアメリカの多様さを肌で感じることができました。

こぢんまりした町とは言え、ABAIが行われたヘンリー・ゴンザレス・コンベンションセンターは前述のアラモ砦からも近く、リバーウォーク沿いにある、とても大きくて綺麗なコンベンションセンターでした。参加者は昨年シカゴよりは少ないようですが事前予約で50か国以上から1300名を超え、シンポジウムは250以上、ポスターセッションも600以上と、大盛況でした。

私は自閉スペクトラム症のある子どものコミュニケーションについて研究していますので、シンポジウムは「AUT」のカテゴリーのものを中心に参加したのですが、「AUT」のシンポジウムはセンター4階の一番奥まったフロアで行われ、大きな講演やポスター会場は1階の入り口付近で行われていたので休憩時間10分での移動が本当に大変でした。他の方も移動が大変だからでしょうが、シンポジウム後半で指定討論や質問になるとバタバタと（しかも堂々と）立ち上がり、かなりの方が退出していかれるのが驚きでした。日本ではちょっと見られない光景です。そのシンポジウムや講演は広くて快適な部屋で行われたのですが、なぜかパワーポイントの字やグラフがどれも小部屋サイズなため、部屋のかなり前方に座らないとリスニング猛特訓タイムになってしまうのが困り物でした。でも、前回の大会よりは他の参加者に近いタイミングでスピーカーの冗談に反応することができるようになりましたので、英語力を鍛えてもらえたのかもしれない。

これまでの文献研究でも感じていたことですが、シンポジウムや講演から考えさせられたの

は、「望ましいコミュニケーション」の在りようには、所属する集団の文化観が大きく影響するようだという事です。ABAIの発表で見聞きする「望ましいコミュニケーション」は「どうコミュニケーション情報を発信するか」に重きが置かれているものが多いようです。一方、私は「自閉スペクトラム症のある子どもが受信したコミュニケーション情報を活用してやりとりを成立・維持させるにはどんな支援が有効か」について研究をしていますので、日本の研究で見聞きするのはまた一味違う発信のコミュニケーションについて多くの知見に触れることができ、大きな刺激となりました。また知見だけでなく、発表のスピーカーの「発信のコミュニケーション」の元気の良さ、自信に溢れた様子にも大いに学ぶことができました。



私のポスターセッションでは、知的能力障害のある自閉スペクトラム症児への椅子取りゲームの指導について発表をしました。椅子取りゲームは英語で“Musical Chair”と言うのですが、タイトルのその文字を見て足を止めてくださる方が多く、「椅子取りゲームを教えるなんて考えたことがなかったよ」「それはクールだ」と研究内容を面白がっていただいたことが大変興味深かったです。日本では「椅子取りゲーム=社会性が必要な遊び」という説明をしなくてもご理解いただけるので、ちょっと意外な反応でした。そこにも前述のコミュニケーション観の違いが

現れているのかもしれませんが。

レセプションでは、9月に京都で行われる ABAAI 国際会議の紹介がありました。京都や奈良の観光オプションツアーも用意されているそうです。ABAAI への参加は、本当に楽しく多くのことを学べる絶好の機会だと私は自信を持って言えますので、この文章をご覧いただき、興味を持たれた方は、ぜひ ABAAI 国際会議に参加され

ることをお勧めいたします。私も ABAAI 国際会議に向けて、毎日英語ニュースを見て耳を鍛え、また新たな学びを得ようと目論んでおります。今回の ABAAI への参加で得た知見を、今後の研究に活かしていきたいと思います。今後とも、学会の先生方のご指導をよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

<ABAAI2015体験記(2)>

SQAB/ABAAI に参加して

時 曉聴(慶應義塾大学大学院社会学研究科)

2015年度日本在住学生会員の ABAAI/SQAB 参加に対する助成をいただき、誠にありがとうございました。ABAAI 第41回大会と SQAB 第38回大会の体験について報告いたします。

今年の大会は、メキシコの隣に位置するテキサス州のサンアントニオで開催されました。メキシコとアメリカの文化が融合した都市であり、様々なメキシコの雑貨や料理がありました。リバーウォークという町の中を流れる小川を中心とした地域では多くのレストランが栄え、ライトアップされた夜景はとても綺麗でした。

自分の発表は ABAAI のみでしたが、その数日前から開催された SQAB の大会にも参加してきました。今年のテーマは「Choice and Consequences」でした。選択行動に対して、神経学、薬理学、行動経済学といった様々なアプローチからのお話を聞くことができました。R. C. Grace の講演では並立連鎖スケジュールでの選択行動に関する cumulative decision model が挙げられていました。明確な説明がまだなさ

れていない強化量効果や初環終環効果についても説明を試みており、興味深いものでした。H. Rachlin & W. M. Baum によるチュートリアルでは日常での具体例を取りあげて、自己制御の考え方をとても分かりやすく講演していただきました。しかし最も印象深かったのは講演の内容ではなく、Baum 先生が講演中に童謡を熱唱して拍手喝采だったことです。失礼かもしれませんが、著名な先生のお茶目な一面が見られて、素敵な経験をすることができました。夕方に行なわれたポスターセッションでは、発表者も質問者もお酒などを飲みながら楽しそうに研究の討論をしており、大変盛り上がっていました。英語を上手く話せない私が聞いても快く質問に答えてくれたり、分かりやすく説明してくれたり、皆さんとても親切でした。

SQAB が終わると今度は ABAAI の大会が始まりました。非常に多くのシンポジウムが開催されており、毎日どれに行こうかと悩みました。選

択行動や確率の研究など自分の実験に関連するシンポジウムを中心に、様々なものに参加してきました。L. Green による割引課題の講演は英語を聞いているとは思えないほどに分かりやすく、遅延割引・確率割引や利得・損失で見られるプロセスの違いなどについて学ぶことができました。他には自然淘汰と行動分析学を関連づけたものや、B. F. Skinner の考え方とエピクロスの快樂主義の関係を述べた講演、強化の数学的原理を扱ったものまで、実験というよりは理論や哲学を議題にしたシンポジウムも多くありました。実験ではない分、図も少なく理解できなかったことが沢山ありますが、普通の授業では知る機会があまりない内容を聞くことができ、とても良い経験になりました。



自分のポスターセッションでは、日本の先生

方や大学院生、海外の先生や学生の方々が聞きに来てくださいました。普段お会いする機会が少ない先生の方々からは貴重なご意見を頂くことができました。自分では気づくことができなかつた分析の視点など多くを伺うことができ、大変勉強になりました。海外の方々は、つたない英語の発表でも丁寧に聞いてくださいました。ディスカッションの場面ではやはり英語を聞き取ることに苦勞してしまって、自分の意見をしっかりと伝えるができませんでした。次の大会ではきちんと英語を聞き取って、積極的にディスカッションできるようにしたいです。発表時間外には他の方々のポスターを見に行きました。アメリカのみではなく、ブラジルやメキシコ、フランスなど様々な国から研究者が来ていました。行動分析学の研究が世界中で行なわれていることを実感するとともに、最新の研究にふれあい、新たな視点や知識を得ることができました。

今回の SQAB/ABAI の大会参加を通じて、非常に多くのことを見て、聞いて、話して、新しい知識や観点を身につけることができました。一方で自分の研究者としての未熟さを改めて痛感しました。ここで得たものを糧に今後も研究に邁進し、成長してまた大会に参加できるようにしたいと思います。最後に、このような機会を与えてくださったことに改めて感謝いたします。本当にありがとうございました。

編集後記

本年4月に、本学会は、一般社団法人になりました。その移行期ということで、今号は、前広報委員会が編集いたしました。そのおかげで、こうして、ご挨拶することができました。学会員のみなさま、約3年間、計13号のJ-ABAニュースをお読みくださり、ありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？物足りなさを感じられたとしたら、それはひとえに編集長たる私の不徳のいたすところでございます。どうか、ご寛容のほどお願いいたします。次号からは、新しい編集部によるJ-ABAニュースがはじまります。今後とも、ご愛顧くださいますようお願いいたします。こうして、実際に、携わってみますと、編集、

通信技術が格段に進歩し、かつ印刷発送は、リファレンスに委託しているにもかかわらず、なかなか大変な作業であることを身に染みて感じ、歴代の編集部の方々の偉大さに、いまさらながら感服いたしました。そんな私でも、なんとか任期を終えることができましたのも、佐伯大輔、米山直樹、是村由佳（順不同、敬称略）の広報委員の献身のおかげです。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

(HO)

J-ABA ニュース編集部よりお願い

● ニュースレターに掲載する様々な記事を、会員の皆様から募集しています。書評、研究室紹介、施設・組織紹介、用語についての意見、求人情報、イベントや企画の案内、ギャクやジョーク、その他まじめな討論など、行動分析学研究にはもったいなくて載せられない記事を期待します。原稿はテキストファイル形式で電子メールの添付ファイルにて、下記のニュースレター編集部宛にお送りください。掲載の可否については、編集部において決定します。

- ニュースレターに掲載された記事の著作権は、日本行動分析学会に帰属し、日本行動分析学会ウェブサイトで公開します。
- 記事を投稿される場合は、公開を前提に、個人情報等の取扱に、十分ご注意ください。

〒582-8582 大阪府柏原市旭が丘 4-698-1
大阪教育大学 大河内研究室気付
日本行動分析学会ニュースレター編集部
大河内浩人
E-mail: okouchi@cc.osaka-kyoiku.ac.jp